



(右)カウンセリングルーム。診療室とは配色の異なる、ブラウンを基調にした落ち着いた空間。
(左)診療室はすべて完全個室。審美治療用の個室は、歯の正確な色を見るため、自然光に近い蛍光灯を設置する徹底ぶり。



小川洋一院長
1964年東京都生まれ。1990年、明海大学歯学部卒。河津インプラント研究所に勤務後、1997年に東京都中央区月島で自身初の歯科医院となる「小川歯科医院」を開業。2010年4月、JR東京駅そばに移転し「東京ステーション歯科クリニック」を開業した。



同業者が認める、機能美を追求した質の高いインプラント治療

東京ステーション歯科クリニック

インプラントひとつをとっても、担当する歯科医によって結果が違う。東京ステーション歯科クリニックの小川洋一院長が手がけるのは、顔貌から歯をとらえた、美しく機能的、かつ長くもつインプラントだ。こだわりの施術を可能にした同院長の高い技術力と、その背後にある、歯科医師としての考え方を伺った。

Photo Satoru Naitoh Text Rie Nakajima

クリニックへのアプローチ。間接照明が幻想的な雰囲気を出している。



「70代のときに治療をさせていただいて、80代になった今でも口の中がほとんど変わっていない患者様もいます。その間、メンテナンスとして何度か来ていただいていたのですが、治療はしていません。このことは、同業者の先生方にもよく驚かれていますね。私にとって何よりうれしいのは、患者様に喜んでいただけたこと。『ありがとう』と、心から言っていただけのことです。」

「患者様の多くは、たとえば失った歯が戻り、痛みがなくなれば、基本的にはOKです。しかし、専門家がみれば、まだ治さないといいけないところがたくさんあったりするんですよ。もちろん、コストと時間をたっぷりかければ徹底的に治すこともできますし、将来的なリスクまでお話しして、今できるところまで治療しておこうという場合もあります。」

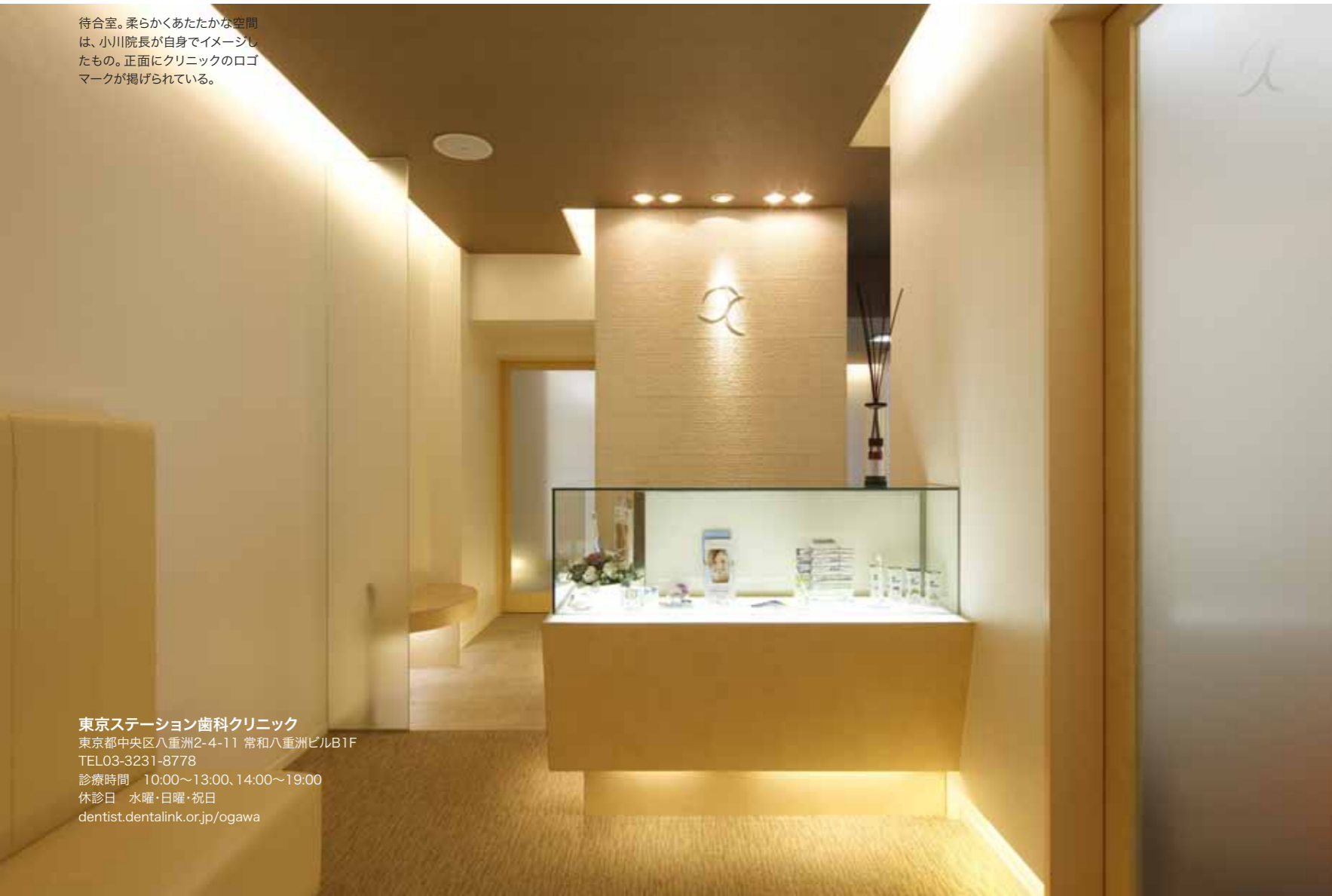
「徹底的な治療を求める患者には、半日に及ぶ治療を行うこともある。説明にも、人によっては1時間から数時間を要している。」

「患者様の多くは、たとえば失った歯が戻り、痛みがなくなれば、基本的にはOKです。しかし、専門家がみれば、まだ治さないといいけないところがたくさんあったりするんですよ。もちろん、コストと時間をたっぷりかければ徹底的に治すこともできますし、将来的なリスクまでお話しして、今できるところまで治療しておこうという場合もあります。」

「患者様の多くは、たとえば失った歯が戻り、痛みがなくなれば、基本的にはOKです。しかし、専門家がみれば、まだ治さないといいけないところがたくさんあったりするんですよ。もちろん、コストと時間をたっぷりかければ徹底的に治すこともできますし、将来的なリスクまでお話しして、今できるところまで治療しておこうという場合もあります。」

「患者様の多くは、たとえば失った歯が戻り、痛みがなくなれば、基本的にはOKです。しかし、専門家がみれば、まだ治さないといいけないところがたくさんあったりするんですよ。もちろん、コストと時間をたっぷりかければ徹底的に治すこともできますし、将来的なリスクまでお話しして、今できるところまで治療しておこうという場合もあります。」

待合室。柔らかくあたたかな空間は、小川院長が自身でイメージしたもので、正面にクリニックのロゴマークが掲げられている。



東京ステーション歯科クリニック
東京都中央区八重洲2-4-11 常和八重洲ビルB1F
TEL03-3231-8778
診療時間 10:00~13:00、14:00~19:00
休診日 水曜・日曜・祝日
dentist.dentalink.or.jp/ogawa

オペ室。インプラントや外科手術が行われている。壁の一部がガラス張りになっていて、隣の部屋からオペの様子を見学することもできる。

